



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立篠路中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■図書局員による「篠中読書ウィーク」の取組

さっぽろっ子読書ウィークにあわせて、11/5～12/24 を篠中読書ウィークと設定し、読書活動を推進しました。

1 局員特製のしおりの配布

局員全員で読書ウィークのキャッチコピーを考え「本があなたをよんでいる」に決定しました。期間中に借りた人先着 50 名へ配布しました。

2 ビブリアバトル開催

昼休みを利用して行いました。先生と生徒がバトルになり、自らの推し本を 3 分間で紹介し、図書館に集まった生徒たちに勝敗を決してもらいました。紹介された推し本は図書館だよりも掲載しました。

3 「帯で本探し」ゲーム

2人1組4チームの生徒が参加しました。本の帯に書かれた情報を基にその帯の付いていた本を見つけるというゲームです。帯の果たす役割（本の内容や装丁などのデザイン的な魅力）にも多くの生徒に気付いてもらえました。

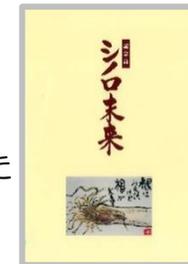


学習センターとしての機能

■1学年「セミナー学習～篠路再発見～」への資料提供

総合的な学習の時間で、フィールドワークしながら調査・発見したことなどを班ごとにまとめ発信しました。

事前学習の資料として『記念誌シノロ未来』（NPO法人てんびんばかり北海道編集・2016年発行）を使ってもらいました。寄贈された 40 冊ほどの資料が役立ちました。篠路が開拓された頃の様子や文化、芸能など歴史がよくわかる冊子です。篠路のまちの良さを再発見できた学習となりました。



情報センターとしての機能

■特別支援学級「まな bell」で社会の情報を知る(学校司書による授業支援)

1 学期に百科事典の引き方から始まり、百科事典や新聞を使っての情報の見つけ方を学んだあと、2 学期は Chromebook に入っているどうしん「まな bell」を使って情報の見つけ方を学習しました。

「まな bell」で記事の検索をしたり、今朝の新聞のトップニュースなどを確認しました。5 分間の動画教材「まな vi」を活用して「北海道の米づくり」を学びました。ワークシートとの併用が有効です。

